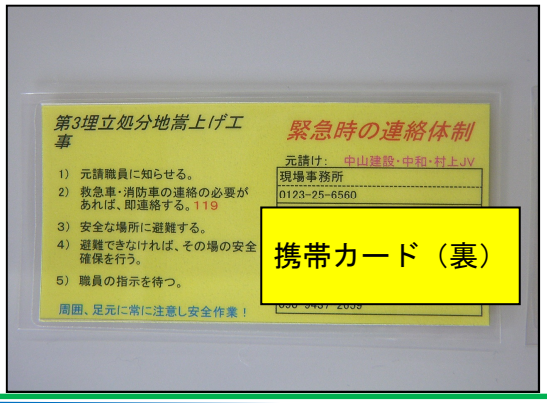
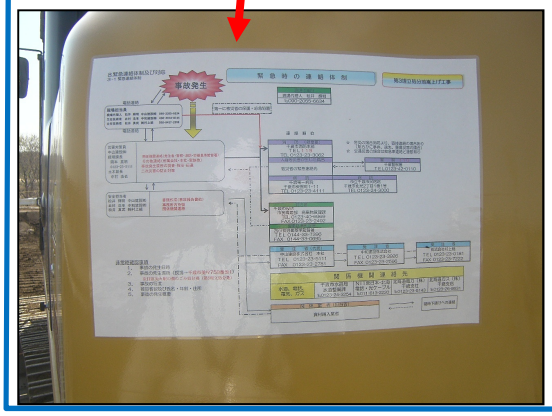
高度技術･創意工夫･社会性等に関する実施状況報告

工　事　名	第3埋立処分地嵩上げ工事		
項　　目	施工状況（安全対策）	評価内容	その他
提案内容	緊急時の対応に関する工夫		
（説　明）	現場作業時における緊急事態に備え、下記の対策を行い、緊急時における連絡体制を明確化し、迅速な対応が図れるよう配慮しました。 A）現場従事者全員が緊急時の連絡体制表を携帯 ⇒本工事現場に従事する者全員に緊急時の対応方法･連絡先･災害発生場所の案内方法を記載したポケット版カードを配布し、携帯させました。 B）建設機械へ緊急時の連絡体制表を掲示 ⇒工事現場における災害は、建設機械を使用した作業で発生しやすいことから、本工事で使用する建設機械のボディー部に緊急時の連絡体制表を掲示した。		

【緊急時の連絡体制表（ポケット版カード）】





【使用機械へ緊急時の連絡体制表を掲示】

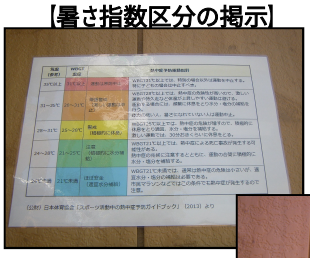
説明資料は、簡潔に作成するものとし、必要に応じて別記とする。

高度技術･創意工夫･社会性等に関する実施状況報告

工　事　名	第3埋立処分地嵩上げ工事		
項　　目	施工状況（安全対策）	評価内容	その他
提案内容	熱中症対策に関する工夫		
（説　明）	作業の開始前に現場作業員へ作業日毎の予想暑さ指数（WBGT値）を報告及び掲示し、熱中症の危険度を把握させ、こまめな　水分補給※1　や　休憩※2　を行い、熱中症対策を図りました。 また、作業員休憩所へ熱中症グッズを常備し、緊急時に備えました。 ※1：作業員休憩所へウォーターサーバーや冷蔵庫等を設置し、冷水を補給できるよう配慮しました。 ※2：作業員休憩所へエアコンを設置し、外気温が高い日や雨天により窓を開けれない日でも快適に休憩できるよう配慮しました。		

【熱中症対策に関する掲示】

【暑さ指数区分の掲示】



【予想暑さ指数の掲示】

【温度計･湿度計（熱中症注意域の表示あり）】

【作業員休憩所①（エアコン設置）】

【作業員休憩所②（ウォーターサーバー等設置）】

【作業員休憩所③（熱中症グッズ配備）】

説明資料は、簡潔に作成するものとし、必要に応じて別記とする。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策実施状況

工　事　名	第3埋立処分地嵩上げ工事		
項　　目	施工状況（安全対策）	評価内容	その他
（説　明）	「建設業における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン（国土交通省通知）」等に基づき、現場事務所や作業員休憩所へ非接触型自動アルコール噴霧装置や非接触型体温計等の対策品を設置し、また、休憩時や会議時においては、3密の対策として空気清浄機やｱｸﾘﾙﾊﾟｰﾃｰｼｮﾝを使用する等、本工事現場における感染拡大防止対策に努めました。		

【コロナ対策依頼の掲示（作業員休憩所）】

【コロナ対策依頼の掲示（現場事務所）】

【コロナ対策品配備状況】

【コロナ対策状況①】

【コロナ対策状況②】

【コロナ対策状況③】

説明資料は、簡潔に作成するものとし、必要に応じて別記とする。

高度技術･創意工夫･社会性等に関する実施状況報告

工　事　名	第3埋立処分地嵩上げ工事		
項　　目	創意工夫	評価内容	品質関係 (コンクリートの打設関係の工夫)
提案内容	コンクリート固定工に関する工夫		
(説　明)	コンクリート固定工の上端部について、見栄えの向上や角の欠け防止等を目的とし、通り型枠を所定の高さ位置に設置し、コンクリートの打設を行いました。		

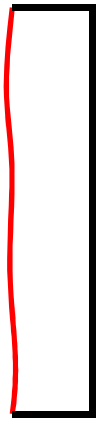
コンクリート打設箇所の
端部へ 型枠を設置

【型枠設置状況 (コンクリート打設前) 】

【型枠設置状況 (コンクリート打設後) 】

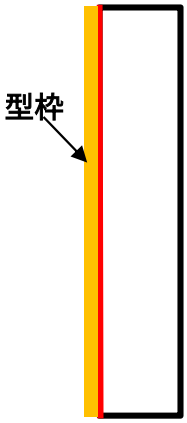
コンクリート固定工 (平　面)

＜型枠無の場合＞



型枠を設置しない場合、ｺﾝｸﾘｰﾄ固定工
端部が波状に仕上がり、見栄えが悪く、
角が欠けやすくなる可能性がある。

＜型枠有の場合＞



型枠を設置することで、ｺﾝｸﾘｰﾄ固定工
端部の通りが良くなり、見栄えが良く、
端部が直線となるので欠け防止になる。

説明資料は、簡潔に作成するものとし、必要に応じて別記とする。

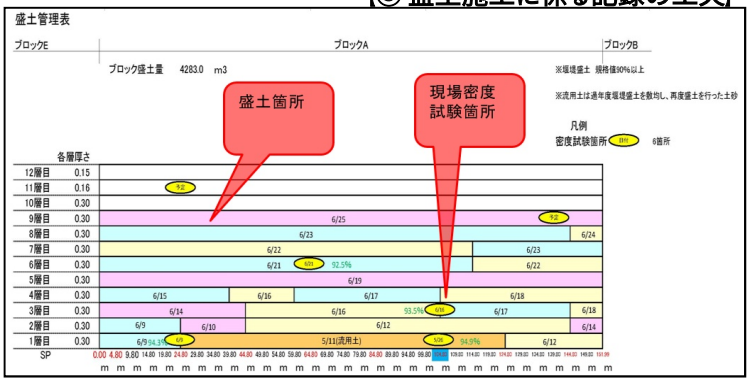
高度技術･創意工夫･社会性等に関する実施状況報告

工　事　名	第3埋立処分地嵩上げ工事		
項　　目	創意工夫	評価内容	施工関係 (施工管理及び品質向上等の工夫)
提案内容	計画的な盛土管理に関する工夫		
(説　明)	堰堤盛土の施工において、下記の①、②、③を実施し、品質の向上を図りました。 ①試験盛土施工の実施 ⇒堰堤盛土の着手前に試験盛土施工を行い、適切な施工方法(使用機械等)や品質管理方法を選定しました。 ②使用機械へ転圧回数を掲示 ⇒試験盛土施工の結果から選定した使用機械に盛土の品質が確保される転圧回数を掲示し、使用機械の操作者が変わっても転圧回数を間違うことなく、一定の品質が確保されるよう対策しました。 ③盛土施工に係る記録の工夫 ⇒堰堤盛土の施工範囲をブロック分けし、各ブロックにおける堰堤盛土を層状毎に施工日、施工範囲、現場密度試験箇所及び試験結果を表に整理することで、常時施工状況を把握でき、また、都度施工計画の見直しや施工不良箇所の把握に努め、品質の向上を図りました。		

【① 試験盛土施工の実施】

【② 使用機械へ転圧回数を掲示】

【③ 盛土施工に係る記録の工夫】

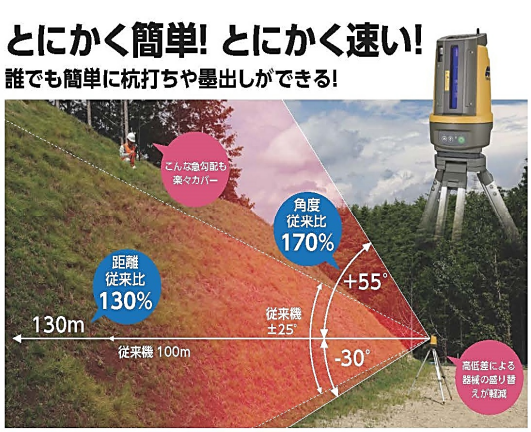


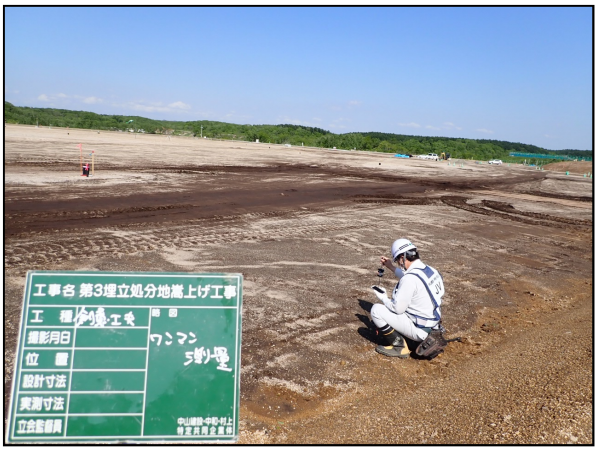
←各ブロックの盛土を層状毎に「施工日」、「施工範囲」、「現場密度試験箇所･結果」を表に都度整理し、今後の施工計画への反映や施工不良箇所の早期発見･改善を心掛けながら施工管理しました。

説明資料は、簡潔に作成するものとし、必要に応じて別記とする。

高度技術･創意工夫･社会性等に関する実施状況報告

工　事　名	第3埋立処分地嵩上げ工事		
項　　目	創意工夫	評価内容	準備･後片づけ関係 (測量･位置出しにおける工夫)
提案内容	杭ナビ機械によるワンマン測量及び測量精度の向上		
(説　明)	自動追尾式の測量機械とスマートフォンに表示される位置情報により、目的の位置出し等を一人で行うことができ、測量に要する人員の削減及び測量精度の向上を図りました。		



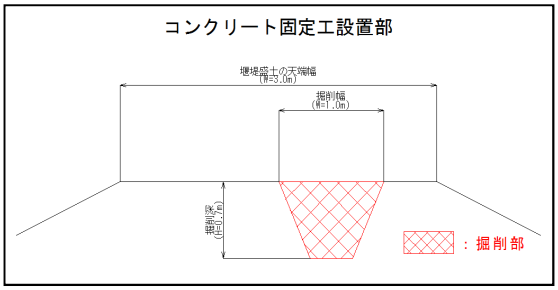


説明資料は、簡潔に作成するものとし、必要に応じて別記とする。

高度技術･創意工夫･社会性等に関する実施状況報告

工　事　名	第3埋立処分地嵩上げ工事		
項　　目	創意工夫	評価内容	施工関係 (施工に伴う器具の工夫)
提案内容	掘削重機バケツの工夫		
(説　明)	コンクリート固定工設置部における掘削（内法勾配付掘削断面）は、堰堤盛土の天端部に重機を配置し、掘削を行う必要がありますが、堰堤盛土の天端部は、幅が狭小なために縦堀りとなり、法勾配付の掘削断面とすることが難しく、機械と人力併用での施工を強いられ、作業効率の低下に繋がると懸念されました。 そこで、重機の縦堀りだけで法勾配付の掘削断面となるように掘削重機のバケツを本施工用に製作し、使用することで機械施工のみでの作業とすることができ、作業効率の改善を図りました。		

【堰堤盛土の掘削断面】



【掘削重機のバケツを製作】

【製作バケツを使用した掘削状況】

説明資料は、簡潔に作成するものとし、必要に応じて別記とする。